

つかのまの陽の光

少し寒くなった午後の
陽の光を浴びながら
西へ向かう鳥たちにも
うつろな鳴き声が聞こえてくる

我が子のこともわからぬほどに
年老いてしまっても
今よみがえる子供の頃に
遠くを見つめながら

杖をついて歩く姿に
涙も枯れてしまう

ずいぶん昔の出来事を
まるで昨日のことのよう
幼い頃の我が子のことを
妄想に浮かべながら

笑いながら走った日よ
あの頃は帰らない
今よみがえる若い頃を
打ち砕く残酷さ

年をとってどうなるか
誰にもわかるはずない